

# 大正期の音楽誌における西洋クラシック音楽の 作曲家に関する記事目録（その1）

Biographical Information of Western Classical Music Composers on Japanese  
Music Journals During the Taisho Period (1912-1926): A List of Articles (Volume 1)

Yoichiro Matsumura

松 村 洋一郎

共通教育科目非常勤講師

## 抄録：

筆者は、明治・大正期に様々な雑誌に掲載された西洋クラシック音楽の作曲家の伝記情報に関する調査を継続して行っている。本稿はその一部であり、大正期の音楽誌（『音楽界』をはじめとする10誌を対象とした）に掲載された、作曲家の伝記情報を扱った記事情報をまとめたものである。今後、大正期の音楽誌全体に関する調査を終えた際に、ここに収録した記事情報も加えて分析を行う予定である。

## Summary：

The author is continuing research regarding biographical information of Western classical music composers through articles in Meiji/Taisho period. This article is a part of this research and covers article information regarding composers' biographical information in music journals (ten journals such as *Ongaku kai* [World of music]) during Taisho period. In the future, after finishing research regarding whole music journals of Taisho period, the author plans to analyze them together with the article information listed in here.

キーワード：伝記情報、作曲家、音楽雑誌、大正期、記事目録

Key Words：biographical information, composer, music journal, Taisho period, article list

筆者は、明治・大正期の様々な雑誌に掲載された作曲家の伝記情報に関する調査を行っており、一部は発表済である（松村 2016, 2017a, 2017b）。本稿もその調査の一貫であり、大正期の音楽誌に掲載された、作曲家の伝記情報に関する記事をまとめたものである。

なお、ここにち大正期の雑誌の記事情報について最も網羅的な情報を提供しているのは、「雑誌記事索引集成データベース」(皓星社)であるが、本稿で対象とした雑誌のなかで『音楽と文学』誌、『詩と音楽』誌以外の記事情報はそこに収録されていない(2017年10月9日現在)。本稿の刊行以降、情報提供を行いたい。

#### ■参考文献など(著者アルファベット順)

井上和男 編 2009.『クラシック音楽作品名辞典 第3版』東京:三省堂.

国立情報学研究所.「学術コンテンツ登録システムオンラインマニュアル」〈<http://www.nii.ac.jp/nels/man/descript/standard.html>〉(2017年10月9日最終アクセス).

皓星社.「雑誌記事索引集成データベース」(有料データベース, 2017年10月9日最終アクセス).

松村洋一郎 2016.「明治・大正期の雑誌(音楽誌を除く)における西洋クラシック音楽の作曲家に関する伝記情報 その1」『国立音楽大学研究紀要』第50集, 219-228頁.

松村洋一郎 2017a.「明治期の音楽雑誌における西洋クラシック音楽の作曲家に関する記事目録」『国立音楽大学研究紀要』第51集, 225-236頁.

松村洋一郎 2017b.「明治・大正期の雑誌(音楽誌を除く)における西洋クラシック音楽の作曲家に関する伝記情報(その2) 記事目録と分析」『音楽研究 国立音楽大学大学院研究年報』第29集, 33-49頁.

音楽関係逐次刊行物所在目録 1992年版編集委員会 編 1993.『音楽関係逐次刊行物所在目録 1992年版』東京:音楽図書館協議会.

#### 目録 大正期の音楽誌に掲載された西洋芸術音楽の作曲家に関する記事(その1)

・本目録は、大正期の音楽誌に掲載された西洋芸術音楽の作曲家に関する記事のうち、本稿執筆の時点で現物を確認した記事を一覧にしたものである。

・『音楽関係逐次刊行物所在目録 1992年版』(音楽関係逐次刊行物所在目録 1992年版編集委員会 1993)を用いて、大正期に発行された音楽誌、及びその巻号を確定し、そののちに現物を確認した。そうして得られた記事情報をまとめたものが本目録である。ここでは、『クラシック音楽作品名辞典 第3版』(井上 2009)に掲載されている人物を「作曲家」として扱った。

・実際に調査した雑誌、巻号のうち、前述の目録に情報が掲載されていないものについては、註に調査を行った機関を記し、前述の目録への補いとした。

・記事は対象とされる作曲家ごとにまとめた。作曲家の配列は生年順とした。

・タイトルに作曲家名または作品名が含まれる記事を基本的な採録対象とした。ただし、タイトルにそれらが含まれない場合でも、少数の作曲家、作品(3~4人、3~4作品を目安とした)を主題にしているものは採録し、内容が分かるよう、註を付した。

・2頁以上の記事を採録対象とした。ただし、連載記事全体でまとまった分量になるものはこの

限りではない。

・原則として仮名遣いは原文のままとし、旧漢字は新漢字に改めた。表記できない文字は、[ ]内に注記した。固有名詞についてもあえて統一はしていない。

・国立情報学研究所が示す基準により、目次とその記事が掲載されているページの情報が異なる場合は、原則として記事掲載ページの情報を優先した（国立情報学研究所）。

・調査対象の誌名、巻号は以下の通り。採録対象の記事を含まない場合も調査したものは全て誌名、巻号を挙げてある。1行目に刊行時期および巻号を、2行目に調査した巻号を記した。各種の情報、およびその記載方法は前述の目録（音楽関係逐次刊行物所在目録 1992 年版編集委員会 1993）と CiNii Books のデータを基にしている。

・音楽界<sup>(1)(2)(3)</sup> 1巻1号（明 41. 1）-6巻12号（大 2. 12）；147号（大 3. 1）- 東京：楽界社 継続前誌：音楽新報，音楽 吸収前誌：楽壇

5 (8-12) [1912], 6 [1913]；147 [1914] -266 [1923]

・音楽芸術<sup>(4)</sup> 1号（大 14. 11）- [東京]：第一書房

1 [1925] -5 [1926]

・音楽研究 1巻1号（大 12. 2）- 東京：音楽研究社

1 (1-5) [1923]

・音楽と文学 1巻1号（大 5. 3）-4巻7号（大 8. 8） 東京：音楽と文学社

1 [1916] -4 [1919]

・音楽の日本 1巻1号（大 10. 10）- 大阪：音楽の日本社

1 (1-2) [1921], 2 (1-2, 4-7, 9) [1922]

・歌舞<sup>(5)</sup> 東京：歌舞社

46 [1923], 51-52 [1923]

・交響楽 1巻1号（大 15. 1）- 東京：日本交響楽協会

1 [1926] -2 [1926]

・詩と音楽<sup>(6)</sup> 創刊号（大 11. 9）-2巻9号（大 12. 10） 東京：アルス

1 [1922] -2 [1923]

・ハーモニカ倶楽部 1巻1号（大 15. 8）- 東京：ハーモニカ倶楽部社

1 (1-4) [1926]

・洋楽研究 創刊号（大 11. 6）- 東京：洋楽研究社

1 [1922] -6 [1922]

#### ■ルター，マルティン Luther, Martin (1483-1546)

津川主一「宗教改革とルーテルのコラール」『音楽芸術』第3号（大正 15 年 1 月），26-43 頁。

#### ■ヘンデル，ジョージ・フリデリック Händel, George Frideric (1685-1759)

千田時次郎「楽聖ヘンデル」『音楽界』第 148 号（大正 3 年 2 月），27-31 頁。

千田時次郎「楽聖ヘンデル」『音楽界』第150号(大正3年4月), 29-31頁.

小泉治「水の音楽」『音楽界』第262号(大正12年8月), 63-68頁.

ロマン ロオラン「ヘンデルの肖像」大田黒元雄訳『音楽芸術』第3号(大正15年1月), 2-23頁.

■バッハ, ヨハン・ゼバスティアン Bach, Johann Sebastian (1685-1750)

千田時次郎「独逸音楽の建設者バッハ」『音楽界』第6巻第4号(大正2年4月), 14-19頁.

「バッハの生立ち・結婚・芸術・死」法月歌客訳『音楽界』第207号(大正8年1月), 6-8頁.

高橋均「近代音楽に於けるバッハの地位 頗る抽象的にして、而も漠然たる」『音楽研究』第1巻第2号(大正12年3月), 10-15頁.

■グラウン, カール・ハインリヒ Graun, Carl Heinrich (1703/04-1759)

村上一郎「フアーニングとグラウンとアレビ」『音楽界』第213号(大正8年7月), 36-39頁.

■グルック, クリストフ・ヴィリバルト Gluck, Christoph Willibald (1714-1787)

山本正夫「グルックの二百年祭」『音楽界』第153号(大正3年7月), 9-10頁.

千田時次郎「グルック」『音楽界』第153号(大正3年7月), 15-20頁.

呉竹園主人「歌劇梗概」『音楽界』第172号(大正5年2月), 19-21頁. <sup>(7)</sup>

■ピッチニ, ニッコロ Piccinni, Niccolò (1728-1800)

響三郎「楽聖の面影」『音楽界』第154号(大正3年8月), 9-19頁.

■ハイドン, ヨーゼフ Haydn, Joseph (1732-1809)

「サンサンの手記(四) ヨセフハイドンと『七つの言葉』」正司憲太郎訳『音楽界』第232号(大正10年2月), 7-10頁.

■パイジエッロ, ジョヴァンニ Paisiello, Giovanni (1740-1816)

村上一郎「ヘルレルとパイジエローとラツフ」『音楽界』第214号(大正8年8月), 28-32頁.

■サリエリ, アントーニオ Salieri, Antonio (1750-1825)

大田黒元雄「モーツァルトとサリエリ」『音楽と文学』第4巻第2号(大正8年2月), 2-12頁.

■モーツァルト, ヴォルフガング・アマデーウス Mozart, Wolfgang Amadeus (1756-91)

千田時次郎「モツァルトは天より降らず『モツァルトの楽風の源流』」『音楽界』第6巻第8号(大正2年8月), 22-26頁.

高折周一「『魔笛』上場の苦心(口絵参照)」『音楽界』第6巻第11号(大正2年11月), 22-24頁.

響三郎「楽聖の面影」『音楽界』第149号(大正3年3月), 4-12頁.

メリケ原作「モーツァルトのプラーグ行(小説)」弘田親輔訳『音楽と文学』第3巻第4号(大正7年4月), 2-9頁.

メリケ原作「モーツァルトのプラーグ行(承前)」弘田親輔訳『音楽と文学』第3巻第5号(大正7年5月), 2-9頁.

大田黒元雄「モーツァルトとサリエリ」『音楽と文学』第4巻第2号(大正8年2月), 2-12頁.

■ルージェ・ド・リール, クロード＝ジョゼフ Rouget de Lisle, Claude-Joseph (1760-1836)

平戸大「護国の曲マルセユス作家の遺骸移転式」『音楽界』第168号(大正4年10月), 5-6頁.

「『ラ・マルセイエーズ』と其物語(その一)」『洋楽研究』第3号(大正11年8月), 25-27頁.

「『ラ・マルセイエーズ』と其物語（その二）」『洋楽研究』第4号（大正11年9月），51-55頁。

■ベートーヴェン，ルートヴィヒ・ヴァン Beethoven, Ludwig van (1770-1827)

千田時次郎「ベートーフェン Beethoven」『音楽界』第5巻第12号（大正元年12月），14-17頁。

千田時次郎「ベートーフェン」『音楽界』第6巻第1号（大正2年1月），12-16頁。

響三郎「楽聖の面影」『音楽界』第148号（大正3年2月），13-26頁。

紫香生「ベートーベンのために負鼠の引き倒し（フインク氏の評言より）」『音楽界』第159号（大正4年1月），17-18頁。

村上一郎「楽聖ベートーベン小伝」『音楽界』第170号（大正4年12月），8-30頁。

青波「桑港に於けるベートーベン銅像除幕式」『音楽界』第170号（大正4年12月），49-51頁。

二見孝平「後期印象派より観たるベートーヴェン（上） カール・ホイットマアの論文に依る」『音楽と文学』第1巻第6号（大正5年8月），11-16頁。

二見孝平「後期印象派より観たるベートーヴェン（下） カール・ホイットマアの論文に依る」『音楽と文学』第1巻第7号（大正5年9月），5-12頁。

二見孝平「文豪ホフマンの論じたるベートルフェンの器楽曲（上）」『音楽と文学』第2巻第2号（大正6年4月），27-32頁。

二見孝平「文豪ホフマンの論じたるベートルフェンの器楽曲（下）」『音楽と文学』第2巻第7号（大正6年10月），15-25頁。

小林愛雄「ベートーヴェン断想」『音楽界』第221号（大正9年3月），3-4頁。

大田黒元雄「ベートーヴェン」『音楽界』230号（大正9年12月），2-3頁。

小泉治「ベートーフェン研究の興味ある諸問題」『音楽界』第230号（大正9年12月），4-8頁。

ヘンリー・テイ・フインク「偶像破壊者及び民主主義としての聖ベートルフェン」法月歌客訳『音楽界』第230号（大正9年12月），9-12頁。

「ベートーヴェンの生涯」『洋楽研究』創刊号（大正11年6月），1-30頁。

小泉治「赤裸のベートーフェン」『音楽界』特倍〔第259〕号（大正12年5月），63-73頁。

鈴木賢之進「ベートーゾの片眼」『詩と音楽』第2巻第5号（大正12年5月），82-86頁。

木村莊八「ベートルフェンの盤」『詩と音楽』第2巻第5号（大正12年5月），89-93頁。

前田三男「英雄交響曲の批判的研究（一）」『詩と音楽』第2巻第7号（大正12年7月），48-52頁。

前田三男「英雄交響曲の批判的研究（二）」『詩と音楽』第2巻第9号（大正12年10月），60-62頁。

ロマン ロオラン「ベエトオヴェンの生涯」大田黒元雄訳『音楽芸術』第5号（大正15年3月），2-45頁。

津川主一「ベエトウエ`ンに於ける宗教」『音楽芸術』第5号（大正15年3月），46-52頁。

須永克己「ベートーフェンとソナタ形式 彼の『二つの原理』に就て」『音楽芸術』第5号（大正15年3月），53-58頁。

野村光一「ベートーヴェンの洋琴曲」『音楽芸術』第5号（大正15年3月），62-69頁。

牛山充「日本で演奏されたベートーヴェンの作品概観」『音楽芸術』第5号（大正15年3月），70-78頁。

弘田親輔「ベートーヴェンの遺墨について」『音楽芸術』第5号(大正15年3月), 79-81頁.

野村長一「蓄音機で聴かれ得るベートーヴェン物の作品」『音楽芸術』第5号(大正15年3月), 81-85頁.

梅津勝男「ゲテとベートーヴェン」『交響楽』第1巻第5号(大正15年5月), 14-15頁.

■オベール, ダニエル=フランソワ=エスプリ Auber, Daniel-François-Esprit (1782-1871)

平戸大「ベルギー革命の烽火たりし歌劇 La Muette de portici」『音楽界』第155号(大正3年9月), 4-7頁.

■フィールド, ジョン Field, John (1782-1837)

法月歌客「夜曲<sup>ノクターン</sup>の創始者ジョン・フィールド」『音楽界』第233号(大正10年3月), 11-15頁.

■シュポーア, ルーイ Spohr, Louis (1784-1859)

村上一郎「スポーアの小伝」『音楽界』第175号(大正5年5月), 7-12頁.

■マイヤベーア, ジャーコモ Meyerbeer, Giacomo (1791-1864)

呉竹園主人「歌劇梗概」『音楽界』第171号(大正5年1月), 30-32頁. <sup>(8)</sup>

■ロッシーニ, ジョアキーノ Rossini, Gioachino (1792-1868)

なにがし「歌劇セミラミデ(ロッシーニ作)」『音楽界』第184号(大正6年2月), 34-35頁.

小林愛雄「歌劇『セヴィラの理髪師』の研究」『音楽界』第193号(大正6年11月), 26-28頁.

「ロッシーニ サンサアンの手記(五)」正司憲太郎訳『音楽界』第234号(大正10年4月), 9-12頁.

■シューベルト, フランツ Schubert, Franz (1797-1828)

堀内敬三「『菩提樹』の歌詞と音楽」『音楽界』第218号(大正8年12月), 2-6頁.

前田三男「未完成スィムフォニーの印象 シューベルト、ロ短調 第一楽章」『詩と音楽』第1巻第4号(大正11年12月), 19-23頁.

■ドニゼッティ, ガエターノ Donizetti, Gaetano (1797-1848)

小林愛雄「歌劇連隊の娘に就て」『音楽界』第149号(大正3年3月), 15-16頁.

弥生丘人「歌劇連隊の娘の梗概」『音楽界』第149号(大正3年3月), 17-18頁.

高折周一「連隊の娘を見て」『音楽界』第149号(大正3年3月), 45-46頁.

千田時次郎「歌劇『連隊の娘』の評語」『音楽界』第149号(大正3年3月), 47-48頁.

■アレヴィ, フロマンタル Halévy, Fromental (1799-1862)

村上一郎「ファーニングとグラウンとアレビ」『音楽界』第213号(大正8年7月), 36-39頁.

■ベルリオーズ, エクトール Berlioz, Hector (1803-1869)

[ケールン]「管弦楽編成より見たるベルリオーズ」堀内敬三訳『音楽と文学』第1巻第12号(大正6年2月), 30-35頁.

法月歌客「初対面のベルリオとメンデルスゾーン」『音楽界』第235号(大正10年5月), 9-10頁.

「ベルリオーズの見たワッハナー」正司憲太郎訳『音楽界』第246号(大正11年4月), 7-9頁.

「ベルリオーズの見たるヴァツハナー(承前)」正司憲太郎訳『音楽界』第250号(大正11年8月), 6-7頁.

「ワグナーの見たベルリオーズ」正司憲太郎訳『音楽界』特倍[第259]号(大正12年5月),

83-84 頁.

エクトル ベルリオ「昔の大家の楽譜に現代人が附加した楽器」尾崎喜八訳『交響楽』第1巻第7号(大正15年7月), 26-27 頁.

■グリンカ, ミハイル Glinka, Mikhail (1804-1857)

平戸大「露西亜音楽の建設者グリンカ」『音楽界』第156号(大正3年10月), 14-20 頁.

中根弘「露西亜歌劇の創設者グリンカと其歌劇(上) 露西亜歌劇の研究(五)」『音楽と文学』第1巻第6号(大正5年8月), 17-23 頁.

中根弘「グリンカと其歌劇(中) 露西亜歌劇の研究(六)」『音楽と文学』第1巻第8号(大正5年10月), 29-36 頁.

中根弘「グリンカと其歌劇(下) 露西亜歌劇の研究(七)」『音楽と文学』第1巻第10号(大正5年12月), 20-28 頁.

■メンデルスゾーン, フェーリクス Mendelssohn, Felix (1809-47)

響三郎「楽聖の面影」『音楽界』第151号(大正3年5月), 17-21 頁.

法月歌客「初対面のベルリオとメンデルスゾーン」『音楽界』第235号(大正10年5月), 9-10 頁.

■ショパン, フリデリク Chopin, Fryderyk (1810-49)

千田時次郎「鬱悵楽人シウヨパン [ママ]」『音楽界』第6巻第3号(大正2年3月), 15-18 頁.

響三郎「ショパン<sup>プレリュード</sup>序楽物語」『音楽界』第6巻第11号(大正2年11月), 24-29 頁.

野村光「忘れられたショパン(一)」『音楽と文学』第1巻第11号(大正6年1月), 4-7 頁.

野村光「忘れられたショパン(中)」『音楽と文学』第2巻第1号(大正6年3月), 22-34 頁.

スタニスラス・タルノフスキー伯爵作「日記を通じて見たるショパン(上)」野村光訳『音楽と文学』第3巻第4号(大正7年4月), 19-29 頁.

スタニスラス・タルノフスキー伯爵作「日記を通じて見たるショパン(中)」野村光訳『音楽と文学』第3巻第5号(大正7年5月), 10-19 頁.

スタニスラス・タルノフスキー伯爵作「日記を通じて見たるショパン(下)」野村光訳『音楽と文学』第3巻第6号(大正7年6月), 6- [20] 頁.

法月歌客「恋人ジヨオジ・サンより見たるショパン(マジョルカに同棲せるサンの手書)」『音楽界』第204号(大正7年10月), 28-30 頁.

小林愛雄「ショパンの悩み」『音楽界』第219号(大正9年1月), 2-3 頁.

カザリン・グットソン女史「ショパンの<sup>ノクターン</sup>夜曲に就て」法月歌客訳『音楽界』第229号(大正9年11月), 23-24 頁.

松浦良一「近々ショパンの生誕日を迎へるに際して」『音楽界』第245号(大正11年3月), 13-14 頁.

「ショパン」『洋楽研究』第2号(大正11年7月), 1, 3-7 頁.

馬場二郎「ショパンの音楽」『詩と音楽』第1巻第1号(大正11年9月), 87-93 頁.

ジェムス・ハネカー「勝利者としてのショパン」鈴木賢之進[訳]『詩と音楽』第2巻第7号(大正12年7月), 66-72 頁.

■シューマン, ローベルト Schumann, Robert (1810-1856)

「若き音楽家へ ロバート・シューマンより」『音楽の日本』第1巻第1号(大正10年10月), 52-53頁.

ロバート、シューマン「若き楽人へ」『音楽の日本』第1巻第2号(大正10年11月), 1,28頁.

ロバート、シューマン「若き音楽家へ」『音楽の日本』第2巻第1号(大正11年1月), 36-37頁.

■リスト, フランツ Liszt, Franz (1811-86)

「敬虔にして世界主義者たりしリスト」法月歌客訳『音楽界』第213号(大正8年7月), 28-32頁.

■フロート, フリードリヒ Flotow, Friedrich (1812-83)

小林愛雄「歌劇『マルタ』の研究」泉生筆記『音楽界』第206号(大正7年12月), 27-28頁.

■ダルゴムイシスキー, アレクサンドル Dargomizhsky, Aleksandr (1813-1869)

中根弘「グリンカの継承者ダルゴミイジスキイと其歌劇(上) 露西亜歌劇の研究(八)」『音楽と文学』第1巻第12号(大正6年2月), 18-22頁.

中根弘「グリンカの継承者ダルゴミイジスキイと其歌劇(中) 露西亜歌劇の研究(九)」『音楽と文学』第2巻第3号(大正6年5月), 18-25頁.

中根弘「グリンカの継承者ダルゴミイジスキイと其歌劇(下) 露西亜歌劇の研究(十)」『音楽と文学』第2巻第9号(大正6年12月), 21-27頁.

■ヴァーグナー, リヒャルト Wagner, Richard (1813-83)

千田時次郎「ワグネル Milhelm Richard Wagner[ママ]」『音楽界』第6巻第5号(大正2年5月), 21-23頁.

千田時次郎「ワグネル Wilhelm Richard Wagner」『音楽界』第6巻第6号(大正2年6月), 23-27頁.

千田時次郎「ワグネル Wilhelm Richard Wagner」『音楽界』第6巻第7号(大正2年7月), 28-32頁.

田村寛貞談「楽聖ワグナー」『音楽界』第6巻第7号(大正2年7月), 61-62頁.

「ワグネルを憶ふ」『音楽界』第6巻第7号(大正2年7月), 62-64頁.

「ワグネルの遺児バイエルと未亡人コジマの訴訟」『音楽界』第154号(大正3年8月), 61-63頁.

響三郎「ワグナー研究(一)」『音楽界』第155号(大正3年9月), 1-4頁.

響三郎「ワグナー研究(二)」『音楽界』第156号(大正3年10月), 20-22頁.

響三郎「ワグナー研究(三)」『音楽界』第158号(大正3年12月), 6-8頁.

千田時次郎「ワグネルの理想の権化アマリー、マテルナ女史」『音楽界』第159号(大正4年1月), 5-7頁.

倉開二六「グランドオペラの夜々 ニーベルングの指輪」『音楽界』第160号(大正4年2月), 11-15頁.

響三郎「ワグナー研究 四」『音楽界』第161号(大正4年3月), 6-10頁.

響三郎「ワグナー新論 一」『音楽界』第164号(大正4年6月), 4-7頁.

リヒャルト ステルンフェルト「ワグナーの劇を見る前に(上)」関重広訳『音楽と文学』第1



巻第3号(大正5年5月), 9-12頁.

リヒアルト ステルンフェルト「ワーグナーの劇を見る前に(下)」関重広訳『音楽と文学』第1巻第4号(大正5年6月), 25-28頁.

桐葉「パイロイト」『音楽界』第178号(大正5年8月), 51-52頁.

堀内敬三「マツェナウアーのワーグナー演奏会」『音楽と文学』第2巻第9号(大正6年12月), 28-29頁.

小林愛雄「力の音楽と宿命の音楽 ワグネルとデビッシーと」『音楽界』第200号(大正7年6月), 8-10頁.

木村彦左衛門「夕星の歌に就いて(世界名曲解説その1)」『音楽の日本』第1巻第1号(大正10年10月), 18-22頁.

木村彦左衛門「ローエングリンの素性の歌に就いて(世界名曲解説其二)」『音楽の日本』第1巻第2号(大正10年11月), 2-7頁.

「ベルリオーズの見たワッハナー」正司憲太郎訳『音楽界』第246号(大正11年4月), 7-9頁.

「ベルリオーズの見たるヴァッハナー(承前)」正司憲太郎訳『音楽界』第250号(大正11年8月), 6-7頁.

近衛秀麿「手紙 ストコフスキーの『タンノイザー』序楽其他」『詩と音楽』第2巻第3号(大正12年3月), 60-63頁.

「ワグナーの観たベルリオーズ」正司憲太郎訳『音楽界』特倍[第259]号(大正12年5月), 83-84頁.

#### ■ヴェルディ, ジュゼッペ Verdi, Giuseppe (1813-1901)

幸陽生「歌劇アメリカ(亦は)ウンバロイムマスケラに就て "Un ballo in Maschera"」『音楽界』第5巻第8号(明治45年[大正元年]8月), 14-17頁.

千田時次郎「ヴェルディ」『音楽界』第6巻第10号(大正2年10月), 20-24頁.

高折周一「ベルディ誕生百年祭演奏会」『音楽界』第147号(大正3年1月), 35-36頁.

西脇氷村『大饗に用ゐらるゝ管弦楽』『音楽界』第168号(大正4年10月), 7-10頁.<sup>(9)</sup>

西脇氷村『歌劇梗概』『音楽界』第168号(大正4年10月), 10-17頁.<sup>(10)</sup>

平戸雨峯「ヴェルディの故郷」『音楽界』第195号(大正7年1月), 26-30頁.

小林玉巖「歌劇トラヴィアタの上演」『音楽界』第197号(大正7年3月), 64-66頁.

平戸雨峯「ヴェルディの研究的態度」『音楽界』第198号(大正7年4月), 12-14頁.

平戸雨峯「嫌ひなアイダと好きなトロバトーレ」『音楽界』第216号(大正8年10月), 31-33頁.

山田耕作「『アイダ』細評」『音楽界』第216号(大正8年10月), 34-36頁.

「世界の歌劇解説 歌劇『リゴレット』」『音楽の日本』第2巻第6号(大正11年6月), 24-29頁.

「世界の歌劇解説 歌劇『アイダ』」『音楽の日本』第2巻第7号(大正11年7月), 14-16頁.

「世界の歌劇解説(其四) 歌劇『<sup>オペラ</sup>トロバトーレ』」『音楽の日本』第2巻第9号(大正11年9月), 4-9頁.

■グノー, シャルル=フランソワ Gounod, Charles-François (1818-93)

- 「歌劇ファウスト (一)」堀内敬三訳『音楽と文学』第1巻第7号(大正5年9月), 13-16頁.  
「歌劇ファウスト (二)」堀内敬三訳『音楽と文学』第1巻第8号(大正5年10月), 11-16頁.  
「歌劇ファウスト (三)」堀内敬三訳『音楽と文学』第1巻第9号(大正5年11月), 25-27頁.  
「歌劇ファウスト (四)」堀内敬三訳『音楽と文学』第1巻第11号(大正6年1月), 19-24頁.  
「歌劇ファウスト (五)」堀内敬三訳『音楽と文学』第2巻第4号(大正6年6月), 23-25頁.  
「歌劇ファウスト (六)」堀内敬三訳『音楽と文学』第2巻第5号(大正6年7月), 23-29頁.  
平戸大「光輝ありしグノオの一生」『音楽界』第197号(大正7年3月), 2-5頁.  
小林愛雄「宗教と芸術との闘ひ」『音楽界』第197号(大正7年3月), 6-7頁.<sup>(11)</sup>  
紫香生「歌劇アアウスト [ママ]」『音楽界』第197号(大正7年3月), 8-9頁.  
西脇氷村「聖樂『<sup>リデムプシヤン</sup>贖罪』に就て」『音楽界』第197号(大正7年3月), 10-11頁.  
高折周一「名優プランコンと歌劇『ファウスト』」『音楽界』第197号(大正7年3月), 12-13頁.  
「樂聖グノオ」『音楽界』第197号(大正7年3月), 63-64頁.

■スッペ, フランツ Suppé, Franz (1819-1895)

- 小林愛雄「喜歌劇『ボッカチオ』と其の作家」『音楽界』第169号(大正4年11月), 31-32頁.  
千栄生「喜歌劇『ボッカチオ』の第一夜の印象」『音楽界』第169号(大正4年11月), 32-34頁.

■オフエンバック, ジャック Offenbach, Jacques (1819-80)

- 小林愛雄「喜歌劇『天国と地獄』の解説」『音楽界』第157号(大正3年11月), 37-41頁.  
小林愛雄「喜歌劇『戦争と平和』梗概」『音楽界』第164号(大正4年6月), 28-30頁.  
千栄生「喜歌劇『戦争と平和』所感」『音楽界』第165号(大正4年7月), 35-36頁.  
小林愛雄「喜歌劇『美はしきヘレナ』について」『音楽界』第184号(大正6年2月), 33-34頁.

■セロフ, アレクサンドル Serov, Aleksandr (1820-1871)

- 中根弘「セローフと其歌劇 露西亜歌劇の研究 (十一)」『音楽と文学』第3巻第1号(大正7年1月), 25-29頁.  
中根弘「セローフと其歌劇 (承前) 露西亜歌劇の研究 (十二)」『音楽と文学』第3巻第2号(大正7年2月), 9-15頁.

■ラフ, ヨーアヒム Raff, Joachim (1822-1882)

- 村上一郎「ヘルレルとパイジエローとラッフ」『音楽界』第214号(大正8年8月), 28-32頁.

■フランク, セザール Franck, César (1822-90)

- ダニエル・グレゴリイ・メースン「セザール フランク」大田黒元雄訳『音楽と文学』第3巻第11号(大正7年12月), 2-9頁.  
法月歌客「セザール・フランクの事ども」『音楽界』第225号(大正9年7月), 7-8頁.  
「セザール・フランクとその楽派」『洋楽研究』第3号(大正11年8月), 1, 3-8頁.  
モーリス・ブーシェ「セザール・フランクの美学」本山俊介訳『音楽研究』第1号(大正12年2月), 1-15頁.  
小泉治「セザール・フランクの生誕百年に際して」『音楽界』第257号(大正12年3月), 25-30頁.

■ブルックナー, アントン Bruckner, Anton (1824-1896)

平戸大「ポンチの大音楽家アントン・ブリュクネル」『音楽界』第202号(大正7年8月), 24頁.

■ルビンシテイン, アントン Rubinstein, Anton (1829-94)

オイジェニオ・デイ・ピラニ「アントン・ルビンスタインの印象」法月歌客訳『音楽界』第214号(大正8年8月), 19-23頁.

「リュビンスタインの音楽対話(一)」『洋楽研究』第2号(大正11年7月), 69-72頁.

「リュビンスタインの音楽対話(二)」『洋楽研究』第3号(大正11年8月), 21-23頁.

「リュビンスタインの音楽対話(三)」『洋楽研究』第4号(大正11年9月), 25-28頁.

「リュビンスタインの音楽対話(四)」『洋楽研究』第6号(大正11年11月), 17-20頁.

■ヨアヒム, ヨーゼフ Joachim, Joseph (1831-1907)

ジェラルド・カムバーランド「記憶の鏡に映じたる六音楽家 ヨアヒムとサラサーテ- ハンス・リヒター——ブランシュ・マルケージ——エドワート・グリーク——サー・アレキサンダー・マッテンジー」大田黒元雄訳『音楽と文学』第4巻第2号(大正8年2月), 19-25頁.

■ルコック, シャルル Lecocq, Charles (1832-1918)

小林愛雄「喜歌劇『マダマンゴーの娘』」『音楽界』第183号(大正6年1月), 44-45頁.

小林愛雄「喜歌劇『小公子』の上演」『音楽界』第183号(大正6年1月), 46-47頁.

■ブラームス, ヨハネス Brahms, Johannes (1833-97)

「ブラームスの生涯」『洋楽研究』第6号(大正11年11月), 5-12頁.

前田三男「ブラームスの第三スィムフォニー 第三楽章の印象」『詩と音楽』第2巻第1号(大正12年1月), 65-66頁.

小泉治「ヨハネス・ブラームス(一)」『音楽界』第266号(大正12年12月), 13-21頁.

■サン＝サーンス, カミーユ Saint-Saëns, Camille (1835-1921)

妹尾幸陽「歌劇サムソンとデリラーに就て "Samson et Dalila" Sait [ママ] -Saëns.」『音楽界』第5巻第9号(大正元年9月), 21-27頁.

妹尾幸陽「歌劇サムソンとデリラーに就て(承前) "Samson et Dalila" Sait [ママ] -Saëns」『音楽界』第5巻第10号(大正元年10月), 25-28頁.

妹尾幸陽「歌劇サムソンとデリラーに就て(続) "Samson et Dalila" Sait [ママ] -Saëns」『音楽界』第5巻第11号(大正元年11月), 21-25頁.

「サンサアンの手記(一)」正司憲太郎訳『音楽界』第229号(大正9年11月), 18-22頁.

「サンサアンの手記(二)」正司憲太郎訳『音楽界』第230号(大正9年12月), 14-19頁.

「サンサアンの手記(三) オペラに於ける神話と歴史」正司憲太郎訳『音楽界』第231号(大正10年1月), 10-15頁.

「サンサアンの手記(四) ヨセフハイドンと『七つの言葉』」正司憲太郎訳『音楽界』第232号(大正10年2月), 7-10頁.

「ロッシイニ サンサアンの手記(五)」正司憲太郎訳『音楽界』第234号(大正10年4月), 9-12頁.

「サンサアンの手記 (六) ジュール・マスネー」正司憲太郎訳『音楽界』第237号 (大正10年7月), 4-6頁.

「サンサアンの手記 (八) [ママ]」正司憲太郎訳『音楽界』第241号 (大正10年11月), 4-6頁.

照井栄三「あゝ、カミイユ・サン・セエン」『音楽の日本』第2巻第1号 (大正11年1月), 38-39頁.

ひさを「サンサアンに就いて」『音楽の日本』第2巻第1号 (大正11年1月), 39-41頁.

「サンサアンの手記」正司憲太郎訳『音楽界』第243号 (大正11年1月), 12-15頁.

「サンサアンの手記 (九)」正司憲太郎訳『音楽界』第244号 (大正11年2月), 10-13頁.

「サンサアンの手記 (十一) [ママ]」正司憲太郎訳『音楽界』第245号 (大正11年3月), 10-13頁.

ロメン・ロラン「セン・サーエンとその音楽」『洋楽研究』第2号 (大正11年7月), 19, 21-33頁.

#### ■ビゼー, ジョルジュ Bizet, Georges (1838-75)

千田時次郎「歌劇カルメン (口絵の説明)」『音楽界』第6巻第3号 (大正2年3月), 64-65頁.

呉竹園主人「歌劇梗概」『音楽界』第166号 (大正4年8月), 15-17頁. <sup>(12)</sup>

西脇氷村「大饗に用ゐらるゝ管弦楽」『音楽界』第168号 (大正4年10月), 7-10頁. <sup>(9)</sup>

「歌劇カルメン (一)」堀内敬三訳『音楽と文学』第1巻第2号 (大正5年4月), 13-19頁.

「歌劇カルメン (二)」堀内敬三訳『音楽と文学』第1巻第3号 (大正5年5月), 13-22頁.

「歌劇カルメン (三)」堀内敬三訳『音楽と文学』第1巻第4号 (大正5年6月), 11-18頁.

「歌劇カルメン (四)」堀内敬三訳『音楽と文学』第1巻第5号 (大正5年7月), 11-19頁.

門馬直衛「カルメン物語 (名曲物語)」『音楽界』第253号 (大正11年11月), 7-10頁.

近衛秀麿「『カルメン』上演の覚え書帖 (一)」『音楽芸術』創刊号 (大正14年11月), 12-19頁.

堀内敬三「改作した歌劇『カルメン』」『音楽芸術』創刊号 (大正14年11月), 69頁.

近衛秀麿「『カルメン』上演の覚え書帖 (二)」『音楽芸術』第2号 (大正14年12月), 10-15頁.

近衛秀麿「『カルメン』上演の覚え書帖 (三)」『音楽芸術』第4号 (大正15年2月), 59-65頁.

#### ■ムソルグスキー, モデスト Musorgsky, Modest (1839-81)

片上伸「ボリス・ゴドノフを聴く」『音楽界』第216号 (大正8年10月), 36-38頁.

#### ■チャイコフスキー, ピョートル Tchaikovsky, Pyotr (1840-93)

小林愛雄「ピーター・イリイチ・チャイコフスキー Eugenio di Pirani」『音楽界』20年第220号 (大正9年2月), 9-15頁.

村上省三「チャイコフスキー論」『音楽界』第256号 (大正12年2月), 17-22頁.

#### ■ドヴォルジャーク, アントニン Dvořák, Antonín (1841-1904)

「ナショナルリストとしてのドヴォラック」法月歌客訳『音楽界』第209号 (大正8年3月), 19-22頁.

前田三男「新世界スィムフォニーの印象 ドヴォルジャーク・第五スィムフォニー第二楽章」『詩と音楽』第2巻第6号 (大正12年6月), 56-57頁.

#### ■マスネ, ジュール Massenet, Jules (1842-1912)

湯原音楽学校長談「逝にし楽星マスネー」『音楽界』第5巻第10号 (大正元年10月), 53-54頁.

西脇氷村「大饗に用ゐらるゝ管弦楽」『音楽界』第168号 (大正4年10月), 7-10頁. <sup>(9)</sup>

西脇氷村『歌劇梗概』『音楽界』第168号(大正4年10月), 10-17頁。<sup>(10)</sup>

「サンサアンの手記(六) ジュール・マスネ」正司憲太郎訳『音楽界』第237号(大正10年7月), 4-6頁。

■グリーグ, エドヴァルド Grieg, Edvard (1843-1907)

ローレンス・ギルマン「グリークに対する弁」大田黒元雄訳『音楽と文学』第1巻第6号(大正5年8月), 2-4頁。

「孤独の楽人グリーグ」法月歌客訳『音楽界』第208号(大正8年2月), 22-26頁。

ジェラルド・カムバーランド「記憶の鏡に映じたる六音楽家 ヨアヒムとサラサーテ- ハンス・リヒター——ブランシュ・マルケージ——エドワート・グリーク——サー・アレキサンダー・マッケンジー」大田黒元雄訳『音楽と文学』第4巻第2号(大正8年2月), 19-25頁。

■サラサーテ, パブロ・デ Sarasate, Pablo de (1844-1908)

ジェラルド・カムバーランド「記憶の鏡に映じたる六音楽家 ヨアヒムとサラサーテ- ハンス・リヒター——ブランシュ・マルケージ——エドワート・グリーク——サー・アレキサンダー・マッケンジー」大田黒元雄訳『音楽と文学』第4巻第2号(大正8年2月), 19-25頁。

■フィビフ, ズデニェク Fibich, Zdenk (1850-1900)

牛山充「フィビッヒの二十五年祭の報に接し、国民音楽の樹立を想」『交響楽』第1巻第7号(大正15年7月), 15-16頁。

■ダンディ, ヴァンサン d'Indy, Vincent (1851-1931)

「ヴェンサン・デンデイとシヤル・・ボルド」『洋楽研究』第4号(大正11年9月), 21-24頁。

■プッチーニ, ジャーコモ Puccini, Giacomo (1858-1924)

幸陽生「歌劇トスカのアリアに就て」『音楽界』第5巻第8号(明治45年[大正元年]8月), 17-18頁。

高折周一「歌劇マダム、バターフライ」『音楽界』第147号(大正3年1月), 15-19頁。

高折周一「帝劇に於て演ぜんとするバターフライの縮写」『音楽界』第147号(大正3年1月), 19-22頁。

「バタフライ [ママ] に対する帝都諸名家の批評」『音楽界』第148号(大正3年2月), 61-65頁。

木村稲阜「美しいプロナウンシェーション」『音楽界』第148号(大正3年2月), 65-66頁。<sup>(13)</sup>

高折周一「バタフライ上場に就いて」『音楽界』第148号(大正3年2月), 69-71頁。

「歌劇解説 歌劇『お蝶 夫人』」<sup>マダム、バターフライ</sup>『音楽の日本』第2巻第5号(大正11年5月), 10-17頁。

■スーザ, ジョン・フィリップ Sousa, John Philip (1854-1932)

ジェラルド・カムバーランド「コンダクター四人 クレイトル——スーザ——カール・ムック——ジュリアス・ハリソン」大田黒元雄訳『音楽と文学』第4巻第5号(大正8年6月), 2-8頁。

■ヴォルフ, フーゴー Wolf, Hugo (1860-1903)

小林愛雄「フーゴー・ヴォルフの音楽」『音楽界』第198号(大正7年4月), 8-9頁。

フェルツチオ・ブゾーニ「覚書と日記から」太田太郎訳『音楽研究』第1巻第5号(大正12年6月), 35-45頁。

■シャルパンティエ, ギュスターヴ Charpentier, Gustave (1860-1956)

五十嵐青波「今楽期に於ける大当りのオペラ『ジュリアン』に就て 花の盛りのファアラ嬢五つの役に扮して千変万化の妙技を揮ふ」『音楽界』第155号(大正3年9月), 10-13頁.

五十嵐青波「今楽期に於ける大当りのオペラ『ジュリアン』に就て」『音楽界』第156号(大正3年10月), 26-29頁.

■パデレフスキ, イグナツィ・ヤン Paderewski, Ignacy Jan (1860-1941)

パデレフスキ「テムボルバート論」牛山充訳『詩と音楽』第1巻第1号(大正11年9月), 85-87頁.

「パデレフスキのテムボルバート論(下)」牛山充[訳]『詩と音楽』第1巻第2号(大正11年10月), 38-42頁.

■マクダウェル, エドワード MacDowell, Edward (1860-1908)

堀内敬三「マクドウェル演奏会」『音楽と文学』第2巻第3号(大正6年5月), 31-32頁.

スキルトン「マクドウェル村の印象」法月歌客訳『音楽界』第241号(大正10年11月), 2-3頁.

スキルトン記「マクドウェル村の印象」法月歌客訳『音楽界』第242号(大正10年12月), 4頁.

マクドウェル「民謡と音楽に於ける国民性との関係(上)」牛山充訳『詩と音楽』第1巻第3号(大正11年11月), 62-67頁.

マクドウェル「民謡及び音楽に於ける其国民性との関係(下)」牛山充[訳]『詩と音楽』第1巻第4号(大正11年12月), 11-15頁.

■ドビュッシー, クロード Debussy, Claude (1862-1918)

大田黒元雄「今日の音楽に現はれたる自然(特にデビュッシーの作品に於て)」『音楽と文学』創刊号(大正5年3月), 2-5頁.

大田黒元雄「デビュッシーの音楽に現はれたる自然」『音楽と文学』第1巻第2号(大正5年4月), 2-5頁.

ロマン、ロラン「クロード・デビュッシーのペレアとメリザンド」鷲尾猛訳『音楽界』第175号(大正5年5月), 14-20頁.

大田黒元雄「愛国の音詩人デビュッシー」『音楽と文学』第1巻第10号(大正5年12月), 1-3頁.

西脇氷村「ドブシーの音楽」『音楽界』第183号(大正6年1月), 6-8頁.

大田黒元雄「洋琴曲作家としてのデビュッシー」『音楽と文学』第3巻第4号(大正7年4月), 10-18頁.

平戸大「仏蘭西の楽人デビュッシー」『音楽界』第200号(大正7年6月), 5-7頁.

小林愛雄「力の音楽と宿命の音楽 ワグネルとデビュッシーと」『音楽界』第200号(大正7年6月), 8-10頁.

大田黒元雄「デビュッシー逝く 近代音楽の創始者」『音楽界』第200号(大正7年6月), 47-48頁.

大田黒元雄「凡人としてのデビュッシー」『音楽と文学』第3巻第6号(大正7年6月), 2-5頁.

ジャン・オウブリー「クロード・デビュッシーを憶ふ」大田黒元雄抄訳『音楽と文学』第3巻第7号(大正7年7月), 2-6頁.

ロメン・ロラン「デビューツシーとその音楽 ベレアとメリザンドについて」『洋楽研究』第3号（大正11年8月），9-15頁。

アンドレ・クウロアー「ドビュッスイと浪漫的和声」本山俊介訳『音楽研究』第1巻第2号（大正12年3月），16-25頁。

服部龍太郎「ドビュッスイとその音楽」『詩と音楽』第2巻第4号（大正12年4月），20-26頁。

結城純一「PAUL VERLAINE の詩章をその歌詞とせる CLAUDE DEBUSSY の歌曲に関する断片的なる二三の考察」『詩と音楽』第2巻第7号（大正12年7月），53-59頁。

■ヴァインガルトナー，フェーリクス Weingartner, Felix (1863-1942)

ヤコブ博士「ワインガルト子ル氏と語る」『音楽界』第190号（大正6年8月），18-20頁。

■シュトラウス，リヒャルト Strauss, Richard (1864-1949)

大田黒元雄「『薔薇の騎士』の印象」『音楽と文学』第1巻第3号（大正5年5月），23-28頁。

ロマン・ローラン「リヒャルト・シュトラウス論（一）」野村光沢『音楽と文学』第1巻第4号（大正5年6月），5-10頁。

ロマン・ローラン「リヒャルト・シュトラウス論（二）」野村光沢『音楽と文学』第1巻第5号（大正5年7月），5-10頁。

ロマン・ローラン「リヒャルト・シュトラウス論（三）」野村光沢『音楽と文学』第1巻第6号（大正5年8月），4-11頁。

ロマン・ローラン「リヒャルト・シュトラウス論（四）」野村光沢『音楽と文学』第1巻第7号（大正5年9月），17-21頁。

紫香生「不評判なるストラウスのアルピン、シンフォニー」『音楽界』17年第189号（大正6年7月），30-32頁。

前田三男「ティル・オイレンシピーゲル リヒャルト、シトラウスの研究（その一）」『音楽の日本』第1巻第2号（大正10年11月），17-21,35頁。

遠藤宏「シュトラウスの交響楽詩」『音楽の日本』第2巻第7号（大正11年7月），6-9頁。

前田三男「『ドン・ファン』の印象」『詩と音楽』第1巻第1号（大正11年9月），82-85頁。

山田耕作「リヒャルト・シュトラウスの印象」『詩と音楽』第2巻第3号（大正12年3月），68-80頁。

小泉洽「シュトラウスの見たる独逸音楽の現状 其他」『音楽界』第260号（大正12年6月），73-78頁。

■ブゾーニ，フェルッチョ Busoni, Ferruccio (1866-1924)

小泉洽「ブーソニとその芸術」『音楽界』特倍〔第259〕号（大正12年5月），35-46頁。

■サティ，エリック Satie, Erik (1866-1925)

ヴァン ヴェクテン「近代楽界の奇才 エリック サティエ」大田黒元雄抄訳『音楽と文学』第4巻第1号（大正8年1月），2-14頁。

小泉洽「近代自由音楽派の先駆者サティエとそ〔の〕怪奇」『詩と音楽』第2巻第5号（大正12年5月），67-70頁。

■グラナドス, エンリケ Granados, Enrique (1867-1916)

千田時次郎「グラナドス氏を悼む」『音楽界』第177号(大正5年7月), 13-14頁.

■スクリャービン, アレクサンドル Skryabin, Aleksandr (1872-1915)

「スクリアビン」『音楽界』第166号(大正4年8月), 46-47頁.

中根弘「スクリャービン時代 ロシア音楽とところどころ」『交響楽』第1巻第5号(大正15年5月), 12-13頁.

■レーガー, マックス Reger, Max (1873-1916)

紫香生「マックス、レゲル (Max Reger)」『音楽界』第177号(大正5年7月), 52-54頁.

アダルベルト・リンドナー集「マックス・レーガーの言葉」片山穎太郎訳『音楽研究』第1巻第5号(大正12年6月), 2-8頁.

■ラフマニノフ, セルゲイ Rakhmaninov, Sergey (1873-1943)

クルト・スチンデル「セルゲー・ラハマニノフ」法月歌客訳『音楽界』第223号(大正9年5月), 2-6頁.

山田耕柞「ラクマニーノフの <sup>スイルウエツト</sup>影 像」『詩と音楽』第2巻第8号(大正12年8月), 58-66頁.

■シェーンベルク, アルノルト Schönberg, Arnold (1874-1951)

エゴン・ウエレス「シェーンベルヒと其未来(一)」二見孝平訳『音楽と文学』第2巻第4号(大正6年6月), 28-32頁.

エゴウン・ウエレス「アーノルド・シェーンベルヒと其未来(二)」二見孝平訳『音楽と文学』第2巻第5号(大正6年7月), 2-22頁.

アントン・フオン・ウーベルン「シェーンベルヒの音楽」片山穎太郎訳『音楽研究』第1巻第3号(大正12年4月), 50-75頁.

シェーンベルヒ「和声学の本質」村松正俊訳『音楽研究』第1巻第4号(大正12年5月), 2-6頁.

■クライスラー, フリッツ Kreisler, Fritz (1875-1962)

平戸大「大ヴァイオリン弾奏家クライスレル氏の従軍談」『音楽界』第160号(大正4年2月), 6-9頁.

平戸大「クライスレル氏の生活感」『音楽界』第178号(大正5年8月), 17-18頁.

小泉洽「提琴大家クライスラー来る!!! (クライスラーと彼の芸術)」『音楽界』特倍[第259]号(大正12年5月), 2-6頁.

山田耕作「フリッツクライスラーの片影」『詩と音楽』第2巻第5号(大正12年5月), 61-66頁.

■ラヴェル, モーリス Ravel, Maurice (1875-1937)

大田黒元雄「仏蘭西楽壇の鬼才モーリス・ラヴェル」『音楽と文学』第1巻第9号(大正5年11月), 1-8頁.

■カーペンター, ジョン・オールデン Carpenter, John Alden (1876-1951)

秋田春夫「近代舞踊劇の研究」『歌舞』第5巻第8号(大正12年8月), 18-22頁. <sup>(14)</sup>

■スコット, シリル Scott, Cyril (1879-1970)

シリル・スコット「パアシイ・グレインヂアー」野村光訳『音楽と文学』第1巻第8号(大正5



年10月), 17-28頁.

大田黒元雄「音楽上の古典主義、浪漫主義並に未来主義 シリル・スコットに拠る」『音楽と文学』第3巻第8号(大正7年8月), 18-24頁.

シリル・スコット「音楽上の智能と単純性」二見孝平訳『音楽と文学』第3巻第9号(大正7年9月), 23-31頁.

法月歌客「シリル・スコットに就て Gilbert H. Beard」『音楽界』第237号(大正10年7月), 10-11頁.

■ブロッホ, エルネスト Bloch, Ernest (1880-1959)

山田耕作「現代二大作曲者の片影」『詩と音楽』第2巻第4号(大正12年4月), 2-12頁. <sup>(15)</sup>

■ミャスコフスキー, ニコライ Myaskovsky, Nikolay (1881-1950)

セルゲイ・プロコフィエフ「ミャスコフスキイ」大田黒元雄訳『音楽と文学』第3巻第9号(大正7年9月), 2-3頁.

大田黒元雄「ミャスコフスキイに就て」『音楽と文学』第3巻第9号(大正7年9月), 32-33頁.

■マリピエロ, ジャン・フランチェスコ Malipiero, Gian Francesco (1882-1973)

谷口生「フランチェスコ・マリピエロ」『音楽研究』第1巻第2号(大正12年3月), 46-51頁.

■グレインジャー, パーシー Grainger, Percy (1882-1961)

シリル・スコット「パアシイ・グレインヂャー」野村光訳『音楽と文学』第1巻第8号(大正5年10月), 17-28頁.

森村豊「ピアノ文学の満開期(パアシイ・グレンヂャーに拠る)」『音楽と文学』第2巻第2号(大正6年4月), 18-22頁.

大田黒元雄「パーシイ グレインジャー」『音楽と文学』第3巻第2号(大正7年2月), 2-8頁.

■ストラヴィンスキー, イーゴリ Stravinsky, Igor (1882-1971)

エミイ・ロウエル「『グロテスク』と呼ばれるストラヴィンスキイ作、絃楽四部合奏曲の印象」大田黒元雄訳『音楽と文学』第2巻第2号(大正6年4月), 14-17頁.

永田龍雄「ストラヴィンスキイ論」『詩と音楽』第1巻第1号(大正11年9月), 64-68頁.

神原泰「ストラヴィンスキーの顔 ある日の感想」『交響楽』第1巻第4号(大正15年4月), 32-34頁.

■ヴェーベルン, アントン Webern, Anton (1883-1945)

アントン・フォン・ウーベルン「シエーンベルヒの音楽」片山頼太郎訳『音楽研究』第1巻第3号(大正12年4月), 50-75頁.

■プロコフィエフ, セルゲイ Prokofiev, Sergey (1891-1953)

大田黒元雄「露西亞楽団の新星」『音楽と文学』第2巻第4号(大正6年6月), 2-5頁.

大田黒元雄「プロコフィエフ来る」『音楽と文学』第3巻第7号(大正7年7月), 23-26頁.

大田黒元雄「露国作曲家 プロコフィエフが自作 演奏と夫に対する断片的感想」『音楽界』第202号(大正7年8月), 37-39頁.

大田黒元雄「プロコフィエフと語る」『音楽と文学』第3巻第8号(大正7年8月), 2-13頁.

大田黒元雄「プロコフィエフの自作演奏に対する感想」『音楽と文学』第3巻第8号(大正7年8月), 25-27頁.

セルゲイ・プロコフィエフ「ミアスコフスキ」大田黒元雄訳『音楽と文学』第3巻第9号(大正7年9月), 2-3頁.

大田黒元雄「プロコフィエフの印象」『音楽と文学』第3巻第9号(大正7年9月), 4-22頁.

大田黒元雄「セルゲイ・プロコフィエフ」『音楽と文学』第4巻第7号(大正8年8月), 2-18頁.

山田耕作「現代二大作曲者の片影」『詩と音楽』第2巻第4号(大正12年4月), 2-12頁.<sup>(15)</sup>

## ■註

- (1) 調査にあたっては、復刻版(大空社刊)を用いた。
- (2) ここに採録したもの以外に、第176号から第212号まで、作曲家を生れ月ごとにまとめて紹介する村上一郎による記事が断続的に掲載されている。長い伝記も含まれるが、多数の作曲家を扱った回も多く、タイトルにも被伝者名が現れないため、採録しなかった。
- (3) グノー(第197号)、クライスラー(特倍[第259]号)の特集号が発行されている。
- (4) ベーローヴェンの特集号(第5号)が発行されている。
- (5) 第46、52号は、日本近代音楽館の所蔵分を調査した。
- (6) 調査にあたっては、復刻版(久山社刊)を用いた。
- (7) オペラ《アルチェステ》および《アルミード》に関する記事。
- (8) オペラ《アフリカの女》に関する記事。
- (9) ヴェルディ、マスネ、ビゼーの小伝からなる
- (10) ヴェルディのオペラ《トロヴァトーレ》、《リゴレット》、およびマスネのオペラ《マノン》、《タイス》に関する記事。
- (11) オペラ《ファウスト》に関する記事。
- (12) オペラ《カルメン》に関する記事。
- (13) 帝国劇場でのオペラ《蝶々夫人》の上演に関する記事。
- (14) ジャズ・パントマイム《クレイジー・キャット》に関する記事。
- (15) プロッホとプロコフィエフに関する記事。